

小竹貝塚でみつかった他地域の土器

富山県埋蔵文化財センター

現在行われている特別展『標識土器～私たち研究者の縄文時代の編み上げ方～』では各時期の縄文土器をテーマに展示しておりますが、小竹貝塚でも非常に多くの縄文土器がみつっています。縄文人のゴミ捨て場である貝塚からみつかったもので、カケラが多いのですが、カケラの文様をじっくり見ると他地域の影響を受けた文様や土器そのものが他地域から伝わってきた可能性があることがわかります。MAIBUN 小竹貝塚プロジェクト vol. 4 では、縄文土器の文様からわかる他地域との交流をみていきたいと思ひます。

1 人骨が埋葬される前（縄文時代前期中葉から後葉）

在地のもの：朝日C式～福浦下層式

朝日C式は氷見市朝日貝塚C地点から出土した土器を標式とします。口縁部にかけて外に開く形の深鉢で、文様は羽状縄文が主体となります。

搬入・他地域の影響を受けたもの：北白川下層Ⅱa・Ⅱb式、諸磯a式、黒浜式

北白川下層式は京都市左京区北白川小倉町遺跡出土土器を標式としたもので、瀬戸内から中部東海地方にかけて広範囲に分布します。竹管状・ヘラ状工具などで多様な刺突文や爪形文を施し、土器に赤彩するものもみられます。諸磯式は関東地方を中心に関西から東北に至る広範囲の分布し、文様施文具に竹管を多用します。a、b、c式の順に変遷がみられます。土器に漆で文様を施すものや獣面突起も出土しました。このほか、諸磯式よりも先の形式である黒浜式の影響を受けた土器もあります。黒浜式は埼玉県蓮田市黒浜貝塚出土土器を標式としたもので、小竹貝塚ではコンパス文のある土器が出土しました。



朝日C式



北白川下層Ⅱ式



諸磯a式



黒浜式

2 人骨が埋葬される時期（縄文時代前期後葉）

在地のもの：福浦下層式～蛭ヶ森Ⅰ式

福浦下層式は石川県志賀町福浦ヘラソ遺跡を標式とします。口縁部は内湾、外反、斜上方に開く深鉢で、体部は羽状縄文が主体で、口縁部には爪形文、刺突文、格子目文、沈線文が施されます。蛭ヶ森式は富山市蛭ヶ森貝塚を標式とします。口



福浦下層式



蛭ヶ森Ⅰ式

縁部は外に開き胴部が膨らむ形の深鉢で、文様は斜行・羽状縄文が主体となります。蜷ヶ森Ⅰ式は口縁部に粘土紐を貼付け隆線とします。

搬入・他地域の影響を受けたもの：北白川下層Ⅱb～Ⅱc式、諸磯a～b式、刈羽式、大木4式

刈羽式は新潟県刈羽村刈羽貝塚から出土した土器をもとにした土器形式で、新潟県から長野県北部に多く分布します。羽状縄文、斜縄文を地文として、口縁部に半截竹管による平行線文や爪形文の文様帯をもつもの、格子目文土器などがあります。大木式は東北地方中南部を中心に分布する土器形式です。大木4式は口縁部に波状や円形の隆帯を貼付けたもので日本海側では小竹貝塚出土土器が最西端です。



刈羽式



大木4式

3人骨埋葬後（縄文時代前期末葉）

在地のもの：蜷ヶ森Ⅱ式～福浦上層式

蜷ヶ森Ⅱ式は蜷ヶ森Ⅰ式に比較すると口縁部はヨコナデ無文、細隆起線文、曲線文となります。福浦上層式は口縁部が外傾・外反する器形の深鉢を主体としたもので、無文地上に結節状浮文や鋸歯状印刻文を施します。口縁部半ばに半隆起線で渦文をえがくものもあります。



蜷ヶ森Ⅱ式



福浦上層式

搬入・他地域の影響を受けたもの：北白川下層Ⅲ式、諸磯c式

人骨を埋葬する時期に比べると出土遺物量は少なく、搬入や他地域の影響を受けた土器も少なくなります。北白川下層Ⅲ式は器面に凸帯を貼付け、その上から幅の狭い竹管状工具で平行沈線を引いたもの（特殊凸帯文）をもつものです。



北白川下層Ⅲ式

小竹貝塚では、各地の特色をもつ土器が数多く搬入、または別の箇所でも模倣されたものが入ってきており、直接ではないですが各方面との交流や影響を受けたことが言えます。そのほかでは今回は取り上げていませんが、石器や玉類の石材や貝輪の素材となる貝からも遠隔地からの伝播や交流をみることができます。このことは小竹貝塚が潟湖に面しており、丸木舟で移動しやすいということも理由のひとつであると思われます。

（高柳由紀子）



土器分布推定図